

今シーズン、最も劇的なサヨナラ打を放った選手が決定！

2020 スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞 受賞者

パ・リーグ 井上晴哉選手（千葉ロッテマリーンズ）

セ・リーグ 西浦直亨選手（東京ヤクルトスワローズ）



スカパー! は 12 月 21 日（月）に「2020 スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」の表彰式を開催しました。表彰式には受賞選手である、千葉ロッテマリーンズ・井上晴哉選手（パ・リーグ）と東京ヤクルトスワローズ・西浦直亨選手（セ・リーグ）が登場しました。表彰式後には受賞両選手に加え、スカパー! プロ野球イメージキャラクターの上原浩治氏をゲストにお迎えしてトークショーも行いました。なお、表彰式とトークショーにはスカパー! プロ野球 P R アンバサダーを務める倉持明日香さんも参加しました。

表彰式では受賞選手の発表に始まり、受賞プレー紹介をした後、トロフィーと賞金パネルが上原浩治氏より贈呈されました。井上晴哉選手（千葉ロッテマリーンズ）は「(打った時) 全然、賞を受賞することを考えていなくて、みんなが嬉しそうに顔で寄ってくるのが幸せを感じる瞬間だった」、西浦直亨選手（東京ヤクルトスワローズ）は「投手戦でなかなか点が入っていない試合で、(打席に向かう時は) 集中しすぎてまわりの言葉が入ってこず、ここしかないという思いでした」と打席を振り返りながら、受賞の喜びとともに挨拶しました。

表彰式後、会場では受賞両選手に加え、ゲストの上原浩治氏によるトークショーを行いました。受賞プレーを VTR で振り返る場面や今シーズンの振り返りなどのトークを展開。井上選手は受賞プレーとなった「主力が離脱するチームを救う貴重なサヨナラ打」を振り返ったり、今シーズンの活躍などの感想を述べました。西浦選手は受賞プレーとなった「チームの 5 割復帰を決める値千金の一打」を振り返ったり、チーム 10 年ぶりの代打逆転サヨナラ本塁打を記録した感想を語りました。上原浩治氏は、「井上選手には全試合出場を目標に、西浦選手にはレギュラーを取ってチームの順位を 1 つでも上げられるように頑張ってください」と受賞両選手の活躍にエールを送りました。

◎井上晴哉選手（千葉ロッテマリーンズ） コメント

あの試合は9回に同点でまわってきて、何とかしたいという気持ちで打席に立ちました。1塁ランナーに福田選手がいたのですが、本当に一生懸命ホームに帰ってくれたというのがすごく嬉しかったですし、何よりチームの勝利に貢献できて本当に嬉しかったです。打った後、思わず泣いてしまって選手みんなに「僕、なんで泣いてるんだろう」と聞いて、謎な時間がありました。（あの涙は）勝った喜びをチームで分かち合えた涙だったと思います。この賞を誇りに思い、来年活躍してチームの勝利に貢献できるように頑張っていきたいと思っています。

◎西浦直亨選手（東京ヤクルトスワローズ） コメント

あの試合は無観客試合という独特の雰囲気の中かで始まりました。自分はベンチスタートでしたが、いつでもいける準備はできていました。9回に監督が代打で起用してくれた時は「自分が決める」という気持ちで打席に立ちました。相手投手が今年引退された藤川さんだったので、代名詞のストレートに的を絞ってしっかりと振り抜くことができました。プロで初めてのサヨナラホームランだったのですごく嬉しかったです。来シーズンもこのような賞をいただけるようドラマティックなプレーを皆さんに届けられるように頑張りたいと思います。

◎ゲスト・上原浩治氏（スカパー！プロ野球イメージキャラクター） コメント

選手個人としては「おめでとうございます」ですが、チームとしてはロッテは惜しかったなというのがありますので、井上選手には来年、さらなる活躍のために全試合出場を目標として欲しいと思います。西浦選手にはまず、レギュラーを取っていただいて、今年、ヤクルトが最下位だったので来年はチームの順位を1つで上げられるように頑張ってもらいたい。また今はオフですから体を休めて、来シーズンも怪我無く頑張ってください。

■受賞プレー概要

井上晴哉選手（千葉ロッテマリーンズ）～主力が離脱するチームを救う貴重なサヨナラ打～

井上選手は、10月13日（火）ZOZOマリンスタジアムで行われた対東北楽天ゴールデンイーグルス19回戦、同点で迎えた9回裏1死1塁の場面で右中間を破るサヨナラ二塁打を放った。首位福岡ソフトバンクを猛追し、負けられない戦いが続く千葉ロッテだが、この試合は5回を終えて0対3とリードを許す苦しい展開となった。しかし6回以降1点ずつ返し8回を終え3対3の同点に追いつく。同点で迎えた9回裏、1死から福田秀選手がレフト前へ安打を打ち出塁すると、井上選手が打席に立つ。10月上旬に新型コロナウイルス感染のため主力選手が多数離脱した千葉ロッテの中で、残された主力としてチームを引っ張って来た井上選手。この試合の打順は、長く任されていた五番から七番に下がり、ここまで3打数無安打と苦しい状況であったが、カウント0-1からの2球目を振りぬくと打球は右中間を真っ二つ。一塁走者の福田秀選手が一気にホームに帰り、劇的なサヨナラ勝利となった。二塁ベース上で仲間からもみくちゃにされた井上選手の目には涙が溢れていた。

西浦直亨選手（東京ヤクルトスワローズ）～チーム10年ぶりの代打逆転サヨナラ本塁打～

西浦選手は、6月25日（木）神宮球場で行われた対阪神タイガース3回戦、1点を追う9回2死1、2塁の場面で左翼席へ値千金の代打逆転サヨナラ3点本塁打を放ち、チームに劇的な勝利をもたらした。東京ヤクルト高梨投手、阪神秋山投手が先発したこの試合は7回を終わって0対0の投手戦となった。均衡を破ったのは阪神梅野選手。8回表、無死フルカウントからレフトスタンドへ今季1号となる先制本塁打を放った。迎えた9回裏、阪神は守護神藤川投手をマウンドに送り逃げ切りを図るが、東京ヤクルトは四球と安打で2死1、2塁のチャンスを作ると、高津監督は井野選手の代打として西浦選手を送った。無観客で静寂に包まれる緊迫した場面で2球目の直球を強振すると打球は左翼席へ飛び込み、チームの5割復帰を決める値千金の一打となった。サヨナラ本塁打は自身初、代打逆転は球団にとって2010年川本選手以来、10年振り5人目の快挙。

■スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞

本賞は、レギュラーシーズンを通じて最も劇的なサヨナラ本塁打、またはサヨナラ安打などを放った選手（セ・パ両リーグの各1選手）に贈られる賞です。「最後の一球まで何が起こるかわからない」と言われる野球というスポーツの象徴的なプレーであるサヨナラ打を称える本賞は、プロ野球全12球団公式戦全試合を放送し、ファンのみなさまの胸が熱くなるゲームを最後までお届けしているスカパー!の想いと連動した賞であり、今シーズン記録されたセ・リーグ17試合、パ・リーグ18試合のサヨナラゲームの中から、「最も劇的な一打」を選出しています。受賞両選手にはそれぞれオリジナルトロフィーと賞金200万円が贈られます。

<<年間大賞 歴代受賞選手>>

年度	セントラル・リーグ	パシフィックリーグ
2009	亀井 義行（読売ジャイアンツ）	井口 資仁（千葉ロッテマリーンズ）
2010	天谷 宗一郎（広島東洋カープ）	小久保 裕紀（福岡ソフトバンクホークス）
2011	長野 久義（読売ジャイアンツ）	松田 宣浩（福岡ソフトバンクホークス）
2012	和田 一浩（中日ドラゴンズ）	中田 翔（北海道日本ハムファイターズ）
2013	長野 久義（読売ジャイアンツ）	浅村 栄斗（埼玉西武ライオンズ）
2014	福留 孝介（阪神タイガース）	松田 宣浩（福岡ソフトバンクホークス）
2015	雄平（東京ヤクルトスワローズ）	柳田 悠岐（福岡ソフトバンクホークス）
2016	鈴木 誠也（広島東洋カープ）	吉村 裕基（福岡ソフトバンクホークス）
2017	宮崎 敏郎（横浜 DeNA ベイスターズ）	栗山 巧（埼玉西武ライオンズ）
2018	下水流 昂（広島東洋カープ）	森 友哉（埼玉西武ライオンズ）
2019	高山 俊（阪神タイガース）	鈴木 大地（千葉ロッテマリーンズ）

リリース情報は、スカパー! 公式サイトにも掲載されております。<https://www.skyperfectv.co.jp/>